

令和2年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを文章で表すことが課題である。</li> <li>覚えた漢字を作文で使うことが課題である。</li> <li>自分の考えを理由を交えて述べるのが課題である。(思考判断表現のA評価は30%に留まっている。)</li> <li>話を最後まで聞いて、要点を理解することが苦手である。</li> <li>今年度学力テストの結果からも、「書くこと・読むこと」の数値が他項目より低く、さらに記述式の正答率が選択式・短答式の数値と大きく乖離していることが上記の課題を裏付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時の授業の中で、自分の考えを相手に伝えたり、文章に表したりする学習活動を多く設けていく。</li> <li>読書感想文なども活用し、文を作る練習を繰り返す行う。</li> <li>話を聞いて要点をメモする学習を取り入れる。</li> <li>読書に親しむことも文章力向上に有効であり、通年での読書活動の啓蒙、図書時間の設置をしていく。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から必要な情報を抽出し、活用することが課題である。</li> <li>調べたことを自分の言葉を使ってまとめることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとに、ノートや新聞にまとめる学習を行う。</li> <li>実物を提示することやワークショップ等の体験を知識と結び付けることで理解を深められるようにする。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>分数のわり算が苦手である。特に文章問題となると数直線を活用せずに立式をし、間違えることが多い。この単元のA評価(90%)は24%に留まっている。</li> <li>文章題に抵抗を感じる児童が多く、立式を間違えることが散見される。</li> <li>5年の割合でつまづいている児童が多く、比のの違いを理解することができていない。比のA評価は18%であり、他単元よりもさらに低いものとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚に訴えた説明や単位換算、各種公式を繰り返し復習し、定着を図る。</li> <li>数学的な考え方をするために必要な基本的な計算力の向上や公式の理解・暗記などに力を入れる。</li> <li>問題文を整理して、数直線や図に表して考える作業を繰り返し取り入れて、題意を読み取る力をつける。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察や実験には意欲的に取り組んでいる。</li> <li>観察や実験の結果を文章でまとめることが苦手である。</li> <li>難しい用語を覚えることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果から考察が深められるように児童の考えを最後まで見届ける。ノート指導を徹底し、疑問に対してアプローチできるようにしていく。</li> <li>授業の始めに前時、前年度の復習を行い、用語の確認をするようにする。</li> </ul>	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究的に学習に取り組むこと苦手である。自分の考えに自信をもつことができない。</li> <li>パソコンを使って調べること慣れている。</li> <li>必要な情報を見つけることができるが、その情報が正しいものであるかどうか判断することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考ツールを活用しながら自分の考えを整理し、探究的に学習できるように支援していく。</li> <li>調べたところから疑問がでてくるように効果的に資料提示を行っていく。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーの演奏において、音色や響きに気を付けて演奏する技能が不十分な児童が4割程度いる。</li> <li>歌唱に対して苦手意識が強いため、響きのある歌声で歌う技能が不十分な児童が5割程度いる。</li> <li>音楽を形作っている要素などへの理解が不十分な児童が3割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数やグループで活動する機会を増やすことで、音色に気を付けて演奏できるようにする。</li> <li>歌唱に対して自信がもてずに表現の幅が狭くなっているため、児童が歌いたいと思えるような教材を用意し、歌うことに積極的にになれるような指導を行う。</li> <li>リコーダーで新曲を扱う際に階名を問題形式にして児童に考えさせることで、音符、休符、記号や用語の定着を図る。</li> </ul>	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵や立体、工作に表す活動を通して表現方法に応じて材料や用具を自ら選択して活用することが苦手である。</li> <li>前学年までの材料や用具についての理解は8割程度の児童ができていますが、それらを表現によって組み合わせる活動に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1単位時間の中で、導入で技能や活動の流れをおさえ、活動では自分たちの発想を作品につなげる場面を示し、自分の表現に自信がもてるように、個別の支援を行っていく。</li> <li>前の学年の記録などを使って、前学年の活動を想起させ、これまでの経験や知識を生かして、活動に取り組めるようにする。</li> </ul>	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>裁縫はど技能面で学習したことをこ繰り返す行わないことで忘れてしまう児童が多い。</li> <li>身の周りのことと関連していると結び付けることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学んだことを児童が家庭で実践できるように、保護者と連携して還元できる機会をつくる。また、ワークシートを準備して、家庭での実践を評価できるようにする。</li> <li>自分事として捉えられるように身の周りの事象を学習で取りあげるようにする。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動が得意な児童とそうでない児童で二極化がみられる。</li> <li>自分の課題をみつめて、工夫して改善していくという一連の学習サイクルが身に付いていない。</li> <li>学び合うことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に応じて場の難易度を調整する。</li> <li>学習の流れを意識させる授業を行う。</li> <li>教え合うポイントを明確にしたり、ワークシートを活用したりして、学び合いがしやすい環境を整える。</li> <li>コーディネーショントレーニングを通して、体の使い方を学ばせる。</li> </ul>	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つ一つの単語の理解ができないことから、活用することができない。</li> <li>恥ずかしがって声を出さない児童がみられる。</li> <li>全体の前での発表などの表現をする際に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インプットの時間を充実させることで自信をもって発話、活動できるようにする。</li> <li>失敗を恐れずやりとりや発表する児童を評価して、進んで活動できる雰囲気をつくる。</li> </ul>	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちを全体に共有することが苦手である。</li> <li>ワークシートには自分の思いを書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の考え方を肯定的に受け止めながら、児童が発言しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>ワークシートに書いたことをもとにペア、グループと段階を踏むことで自分の思いを伝えられるようにする。</li> </ul>	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。